

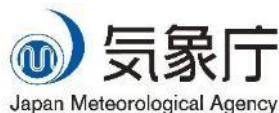
8月26日は 「火山防災の日」



令和5年6月「活動火山対策特別措置法」が一部改正され、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、8月26日を「火山防災の日」とすることが定められました。8月26日は、明治44年に日本で最初の火山観測所が浅間山に設置され観測が始まった日です。

気象庁では、より多くの方に、火山の魅力や恩恵とともに、火山防災について正しく理解していただく目的で、気象庁ホームページに「火山防災の日」特設サイトを開設しています。

「火山防災の日」をひとつのきっかけとして、噴火災害への備えをいま一度確認していただければと思います。



特設サイトへは、上の二次元バーコードを読み取るか、「気象庁 火山防災の日」で検索してください。

<特設サイトの内容例>

火山のしくみ

わたしたちが生きているこの地球は、十数枚のプレートと呼ばれる固い岩盤でおおわれています。

日本の近くでは、水をふくんだ海のプレートが陸のプレートの下にもぐりこんでいきますが、そのとき、地下深くの高い温度や圧力によってその水が放出されることで、地球の内部のマントルというところがとけて、マグマができます。そのマグマが浅いところまできて地表にふき出し、火山ができるのです。

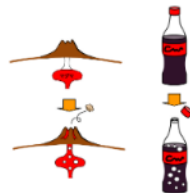
(詳しくは [火山噴火の仕組み](#) をご覧ください。)



噴火のしくみ

マグマには、水や炭酸ガスなどの火山ガスがとけこんでいます。

このマグマが地下の浅いところまでくると、まわりの圧力が下がり、炭酸ジュースのふたをあけたように、マグマの中の火山ガスが泡になります。泡を含んだマグマはまわりよりさらに軽くなるので、地上まで上がってきてふき出します。これが噴火です。



お問い合わせ

気象庁 三宅島火山防災連絡事務所

東京都三宅島三宅村阿古497番地（三宅村役場臨時庁舎3階）

電話 04994-5-0980

受付時間は平日の8時30分から17時15分まで。

休日や夜間のお問い合わせは、気象庁火山監視・警報センターに転送されます。

その他の情報も気象庁ホームページ等をご利用ください



気象庁HP



X（旧Twitter）
気象庁



X（旧Twitter）
気象庁防災情報